

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100785		
法人名	医療法人誠仁会		
事業所名	グループホーム「わかたけ」		
所在地	青森県つがる市木造若竹5		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouth.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272100785&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○入居者がゆったり、楽しく、生き生きとした生活が送れるように取り組んでいる。 ○誕生会は特別メニューを提供、又、便秘がちの人には、ヨーグルトを摂取、排便調整している。 ○摂取前には嚥下体操を行い、誤嚥防止に努め、おやつ前には下肢筋力低下防止の体操を行い、転倒防止に努めている。 ○設置母体が病院であるため家族に安心感がある。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念である「ゆったり、楽しく、生き生きとした生活が送れるよう職員は日々取り組んでいる。リビングは広くゆったりとしており、入居者は居室で過ごすよりもリビングで過ごすことが多く、雰囲気がとても明るく居心地の良いホームである。職員は勉強会に力を入れ、資質向上とサービスの質の向上を目指し、日々業務に取り組んでいる姿勢が強く感じられる。また、母体施設が病院であるため、入居者・家族は安心して過ごされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2箇所に理念を掲示し、日々反映されるようにしている。 月1回のホームカンファレンスで、実践に向けて話し合い確認している。	入居者が地域の中でその人らしく過ごせるように「ゆっくり、楽しく、生き生きと」という理念が掲げられている。ホールとワーカー室に掲示され、毎朝のカンファレンス時や月1回の会議時にケアの方針を話し合い確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時等、地域の方がボランティアで来ていただいたり、地域住民と交流を持つよう努めている。	市の行事に参加したり、敬老会等の行事には地域の人に呼びかけをし、ボランティアや訪問に来て頂いたり地域住民との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学は受け入れており、地域の方には気軽に立ち寄ってもらえるよう、電話等問い合わせの時には対応している。 見学された方には認知症の人の理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族や市の担当者も参加しており、意見が交換されている。 そこでの意見は職員に伝えサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、市の担当者、民生委員、家族が参加され、ホームの状況報告や意見交換等が行われている。会議で出された意見等は職員に伝え、サービスの向上に向け取り組んでいる。会議後は報告書にまとめ回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合っている。	市の担当者から問い合わせの電話があったり、こちらから相談をするなど、連絡を密に取り合い協力関係を築いてる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員は理解しており、拘束のないケアをしている。	身体拘束に関するマニュアルが作成され、勉強会も行い身体拘束をしないケアについて職員全員が理解している。また、生活する上で伴うリスクの説明は状況に応じ随時家族に話しており、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、全職員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書に沿って説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意しており、意見や要望がある時は聞いている。	2ヶ月に1回、便りを作成し家族に送付しており、その際にも意見等を話していただけるよう伝えている。また、家族は月1回必ず面会に来ており、その都度本人の日頃の様子や状態変化等を伝え、意見や要望が無いか聞くように努めている。	契約時には事業所以外で苦情等が言える場があることを説明しているが、今後はそれを定期的に伝えていく取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームカンファレンスや勉強会等、職員の意見や提案を随時聞くように心掛けており、反映させている。	月1回の会議時に職員の意見や提案を伺い、それ以外でも普段から気軽に意見を出してもらえるようにし、その都度話し合い、それを業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の親睦会の行事への積極的な参加を促しており、気分転換を図っている。 勤務の希望は出来るだけ受け入れ、相談事も随時受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会や法人内外の研修会に順次参加させている。 資料はいつでも閲覧できるようにしており、報告機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会(研修会)はあり、意見交換や経験をケアに活かす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの相談を受ける時に、本人の困っていること等を聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの相談を受ける時に、家族や担当のケアマネージャーから情報収集を行い、家族の困っていること等聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーと連絡をとり、意見交換を行い、支援の方向性を保っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら、ゆったりと穏やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、外出時の様子の写真を見ていただいたり、ホームでの様子を話したりしている。 又、家族の行事への参加を促しており、参加された時は一緒に楽しんでいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの方が面会に来た時は、次回の面会につながるように声掛けをしている。 外来受診時に顔見知りの方との談笑もみられる。	親戚や顔なじみの方が面会に来たりと、いつでも自由に面会でき、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールに居ることが多く、孤立しないよう他利用者の間に入り、会話をしたり、利用者同士楽しく時間を過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が当法人の病院へ入院した場合、病室を訪問し経過を把握。 家族と会った時は、その後の様子を聞いたり関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子と会話から意向を把握し、無理強いしないよう努めている。 入浴の場合でも、日中拒否した場合、就寝前様子を見て入浴を行っている。	本人の好きなこと、得意なことを把握しており、その他にも日々の会話から意向を汲み取るようにしている。本人がうまく伝えられない場合は言葉だけでなく、仕草や態度からも汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャーから情報を基にセンター方式を取り入れて経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別により申し送りにより、情報を交換。 必要であれば話し合い、心身の状態有する等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や会話から察知し、本人本位の介護計画に視点を心掛けている。 又、家族の面会時や介護計画配布時に具体的な意見を引き出せるよう心掛けている。	課題やケアのあり方について職員と一緒に考えながら話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直しと、状態変化時にもその都度見直しを、家族には面会時に説明し理解された上で同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やいつも違う事項等を個別記録に記入し、申し送りで介護情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・遠足の時の乗り物を手配する時は、法人と連携を取りながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	設置母体と一緒に諸行事を行い、地域の方と協力し、支援している。 市の催し物を見学に行ったり、他のGHの行事へ招待されたり、協力しながら支援している。 警察の方も年1~2回来訪がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居申し込み時や契約時に家族と受診の支援方法を決定し対応している。	契約時に本人と家族と話し合い、母体の病院以外の通院は家族に協力していただくことを説明し、納得した上で対応している。家族が通院介助する場合は情報提供をお互いに行い、スムーズな対応ができるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の申し送りをを行い、情報を共有し、個々の利用者が適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病室訪問したり、病棟責任者と連絡を密に取り、情報交換に努めている。 面会時家族と情報交換しながら関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入居後も家族との意向を聞き、方針を共有し、同意書を作成している。 状態に変化があった時は、医師の指示を仰ぎながら家族や職員と検討している。 緊急時には対応可能な場合協力病院を確保している。	契約時にホームでできる事を本人・家族に話しをしている。また、本人の状況や状態に合わせてその都度、家族、医師と話し合いを対応している。必要に応じて母体の病院への入院等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行い、事故発生時の初期対応を確認している。 夜間急変時に備え体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で訓練を行い、駆けつける体制を整えている。 独自に利用者参加の避難訓練を行っている。	避難訓練は日中、夜間を想定して年2回行っている。運営推進会議では折りに触れて地域の方への協力をお願いしている。救出方法を職員皆で話し合い、良い案を出し合いながら訓練に臨んでいる。	避難訓練のみではなく、地震訓練や非常用の食料・備品の準備をすることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないように言葉掛けや対応に配慮している。 記録にはイニシャルを使う等個人情報に配慮している。 個人情報利用同意書を作成している。	管理者は職員の日頃の言葉遣いについてその都度注意し、一人ひとりの人格を尊重するような態度や言葉がけを徹底している。契約時には個人情報取り扱いについて説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表出しやすいように職員側から押し付けたりせず、態度や声掛けに十分注意し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら、入居者に何をしたいかどうしたらいいのか、本人の気持ちを尊重した支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理容師の出入りがあり、各々好みの髪型を保っている。 又、入浴日は自分で入浴後の衣服が準備できる方は行ってもらい、本人の好きな衣服の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好は把握している。食べたいものを聞いてメニューに取り入れている。職員は入居者と一緒に準備(皮むき)、食事の後片付けをして楽しい雰囲気づくりに心掛けている。誕生日や行事等に特別メニューを作っている。	母体の病院の栄養士が献立を作成し、栄養バランスの取れた食事を提供している。入居者の好き嫌いを把握し、嫌いな物には代替で対応している。職員は、野菜の下ごしらえや片付けを入居者と一緒に行い、見守りしながら入居者と会話を楽しみ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし情報を共有している。 食事以外1日2回、午前午後とお茶や牛乳で水分補給、夏は入浴後、麦茶を飲んでいただき脱水予防に努める。 嚥下状態に合わせてミキサーやフードプロセッサーを利用したり、とろみをつける工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、緑茶によるうがいを行っている。 毎食後うがいや義歯洗浄の声掛けをしている。 起床時は、就寝時には見守りや介助で口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを理解。早めに声掛けし、トイレでの排泄に心掛けている。夜間も個々の時間に合わせたトイレ誘導又はポータブルトイレへの移動による排泄を心掛けている。	排泄パターンを把握し、個々に合わせた声掛けをし誘導している。本人の排泄の状況を確認しながら排泄用具の変更や見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた乳製品(ヤクルト・牛乳・飲むヨーグルト)を飲ませたり、便秘がちな利用者には昼夕食後、自家製ヨーグルトを摂取していただいている。排泄表により、状況を把握し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回、曜日は決めて行っている。拒否する時は無理せず、足浴や清拭で対応している。拒否する人は、就寝前に入ったり、気持ちよく眠れるよう、本人希望に沿うようにしている。	週3回入浴できるようになっているが、拒否する入居者がいた場合は、タイミングをみて声掛けをしたり、無理強いせず清拭や足浴で対応している。入浴の順番は決めず、本人と話し合いながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。入浴後は疲労を考え一人ひとりの体調や表情を観察し、一旦ベッドに休んでいただきゆっくり休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬の副作用・用法・用量についての調剤表があり、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば、申し送りノート・ファイルにも記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見つけ、役割や楽しみごとを作り出す支援をしている。カーテンの開閉、新聞の取り込み、掃除、調理(皮むき)ゴミ袋たたみ、チラシの箱作り、牛乳パック切等出来ることをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、外の景色を眺め散歩を楽しみながら受診したり、家族にも外出等協力をお願いしている。遠くに出かける時は、あらかじめ計画を立て職員が下見に行ってから外出しており、ショッピングセンター等へも立ち寄っている。	外気にふれる機会が持てるように日常的に散歩に出かけている。希望の外出にも対応できる体制がある。また、地域の祭り等には家族へも参加を呼びかけ、一緒に参加していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等と相談しながら一人ひとりの能力に応じ小銭を所持し、金銭管理を支援している。 買い物の支払いには、職員が付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも使用できるようにしており、利用者の希望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の飾りつけは季節感を取り入れている。 窓からは外の景色や庭木・鳥の姿が見えている。 テレビの音量や職員の声掛け時の声量に気をつけ不快感を与えないようにしている。	ホールは季節に合った飾りつけがされており、温度計で室温を確認しながら暖房を調整したり、加湿器を使用するなど快適で居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールはいつでも自由に利用できる。 食後も食堂に座って気の合う利用者同士会話したり過ごしている。 電話の横にも椅子を置き、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やベッド周りに写真や好みのもので飾っている。 クローゼットは大きくゆとりがあり、使い慣れた物を置いている。	使い慣れた物を自由に持ち込むことができ、居室には馴染みの物や写真、本人が作成した作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで全ての居室に洗面台があり、自立した生活が出来るよう工夫している。 夜間居室のポータブルトイレ設置場所も個々に工夫している。迷いや混乱がないよう一人ひとりに合わせた目印を付ける等工夫したり見守り、声掛け等を行っている。		